

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成21年11月12日(2009.11.12)

【公表番号】特表2009-509508(P2009-509508A)

【公表日】平成21年3月12日(2009.3.12)

【年通号数】公開・登録公報2009-010

【出願番号】特願2008-532490(P2008-532490)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	31/22	(2006.01)
A 6 1 P	9/10	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
G 0 1 N	33/53	(2006.01)
G 0 1 N	33/566	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)
G 0 1 N	33/50	(2006.01)
C 1 2 Q	1/68	(2006.01)
C 0 7 K	14/47	(2006.01)
C 0 7 K	16/18	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
A 6 1 K	31/22	
A 6 1 P	9/10	1 0 3
A 6 1 P	9/00	
G 0 1 N	33/53	M
G 0 1 N	33/566	
G 0 1 N	33/53	D
G 0 1 N	33/15	Z
G 0 1 N	33/50	Z
C 1 2 Q	1/68	A
C 0 7 K	14/47	
C 0 7 K	16/18	
A 6 1 K	45/00	

【手続補正書】

【提出日】平成21年9月25日(2009.9.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

急性冠状動脈事象を発症する変更された危険性を有する個体を同定するのを支援する方法、またはスタチン処置に応答する個体の可能性を評価するのを支援する方法であって、該方法が、

該個体の核酸のサンプルにおけるS N Pの対立遺伝子の存在または非存在を検出する工程

を包含し、ここで該 S N P は、配列番号 2 6 3 の 1 0 1 位によって示され、そして該対立遺伝子の存在または非存在は、急性冠状動脈事象を発症する個体の危険性またはスタチン処置に応答する可能性に相関する、方法。

【請求項 2】

前記個体の核酸と検出試薬とを接触させる工程、およびどのヌクレオチドが、特定された S N P 位置に存在するかまたは存在しないかを決定する工程を包含する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記核酸は、前記個体の血液細胞から調製される、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記検出試薬は、ポリヌクレオチドプローブである、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 5】

前記プローブの 3' 末端は、前記核酸における S N P にハイブリダイズする、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

前記プローブは、レポーター色素によって標識される、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 7】

核酸分子における配列番号 2 6 3 の 1 0 1 位によって示される一塩基多型 (S N P) を検出する方法であって、

試験サンプルと、ストリンジエントなハイブリダイゼーション条件下で配列番号 2 6 3 のヌクレオチド配列における S N P に特異的にハイブリダイズする試薬とを接触させる工程、ならびに

ハイブリダイズした二重鎖の形成を検出する工程
を包含する、方法。

【請求項 8】

前記検出は、対立遺伝子特異的プローブハイブリダイゼーション、対立遺伝子特異的プライマー伸長、対立遺伝子特異的增幅、配列決定、5' ヌクレアーゼ消化、分子ビーコンアッセイ、オリゴヌクレオチドライゲーションアッセイ、サイズ分析、および一本鎖立体配座多型からなる群より選択される工程によって行なわれる、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

急性冠状動脈事象を発症する変更された危険性を有する個体を同定するのを支援する方法、またはスタチン処置に応答する個体の可能性を評価するのを支援する方法であって、該方法が、

該個体の核酸のサンプルにおける多型の存在または非存在を検出する工程
を包含し、該多型は、配列番号 2 6 3 のヌクレオチド配列における 1 0 1 位によって示される S N P との連鎖不均衡に存在し、そして該多型の存在または非存在は、急性冠状動脈事象を発症する個体の危険性またはスタチン処置に応答する可能性に相関する、方法。

【請求項 10】

個体において心臓血管障害を処置する方法であって、該方法が、

配列番号 2 6 3 の 1 0 1 位によって示される S N P の存在または非存在によって予測されるようなスタチン処置に応答する該個体の可能性に基づいて有効な量のスタチン
を含む

、方法。

【請求項 11】

S N P 含有核酸分子によってコードされる改変タンパク質を検出するための試薬であって、該試薬は、別の核酸分子によってコードされるタンパク質と比較して、該改変タンパク質に選択的に結合し、ここで該 S N P 含有核酸分子は、配列番号 2 6 3 の配列番号 1 0 1 によって示される S N P を含む、試薬。

【請求項 12】

前記試薬は、抗体、抗体フラグメント、アプタマー、ペプチド、リガンドまたは低分子化

合物である、請求項1_1に記載の試薬。

【請求項1_3】

前記試薬は、レポーター色素または造影剤によって標識される、請求項1_2に記載の試薬。
。

【請求項1_4】

請求項1_1に記載の試薬および緩衝液を備える、キット。

【請求項1_5】

増幅されたポリヌクレオチドであって、該増幅されたポリヌクレオチドが、配列番号2_6_3またはその相補体の1_0_1位によって示される一塩基多型(SNP)を含み、ここで、該増幅されたポリヌクレオチドが、約16ヌクレオチドと約1,000ヌクレオチドとの間の長さである、増幅されたポリヌクレオチド。

【請求項1_6】

前記ヌクレオチド配列は、配列番号2_6_3のヌクレオチド配列を含む、請求項1_5に記載の増幅されたポリヌクレオチド。

【請求項1_7】

配列番号2_6_3のヌクレオチド配列における1_0_1位によって示される一塩基多型(SNP)を含む核酸分子に特異的にハイブリダイズする、単離されたポリヌクレオチド。

【請求項1_8】

8ヌクレオチド～70ヌクレオチドの長さである、請求項1_7に記載のポリヌクレオチド。
。

【請求項1_9】

対立遺伝子特異的プローブである、請求項1_7に記載のポリヌクレオチド。

【請求項2_0】

対立遺伝子特異的プライマーである、請求項1_7に記載のポリヌクレオチド。

【請求項2_1】

核酸における一塩基多型(SNP)を検出するためのキットであって、請求項1_7に記載のポリヌクレオチド、緩衝液、および酵素を備える、キット。

【請求項2_2】

配列番号2_6_3からなるアミノ酸配列を含む、単離されたポリペプチド。

【請求項2_3】

前記ポリペプチドは、配列番号2_6_3からなるアミノ酸配列を有する、請求項2_2に記載の単離されたポリペプチド。

【請求項2_4】

請求項2_2に記載のポリペプチドに選択的に結合する、抗体。

【請求項2_5】

心筋梗塞を治療的もしくは予防的に処置するのに有用な薬剤を同定するための方法であって、該方法が、候補薬剤に請求項2_4に記載のポリペプチドを、該ポリペプチドと該候補薬剤との間に結合複合体を形成させるために適切な条件下で接触させる工程、ならびに該結合複合体の形成を検出する工程を包含し、ここで、該複合体の存在が、該薬剤を同定する、方法。